

令和 6-7 年度 各種アンケート結果（就職先・進路先アンケート）

IR 委員長 伊木亜子

令和 6 年度から令和 7 年度にかけて、本学卒業生の就職先・進路先である企業・法人へ依頼し Forms によるアンケートを実施した。依頼先について、食物栄養学科卒業生就業先 7 件（回答率 100%）、保育学科卒業生就業先 69 件（回答率 41%）であった。うち、過去 3 年以上就業先として該当者がいない企業は 5 件であった。

本学卒業生は、本学の「教育目標」および「学習成果」に相当する能力を身に付けているか、各項目をそれぞれ 3 段階で評価してもらった。「豊かな人間性」、「確かな専門性」、「地域社会への貢献」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「コミュニケーション力・社会人力」の各項目における評価を図 1～6 に示す。全体的に「身に付いていない」の回答は少数であるものの、「どちらともいえない」と合わせると「身に付いている」の件数を上回るものが大半であり、企業・法人の本学卒業生に対する評価は厳しく、この傾向は例年と同様の傾向であった。

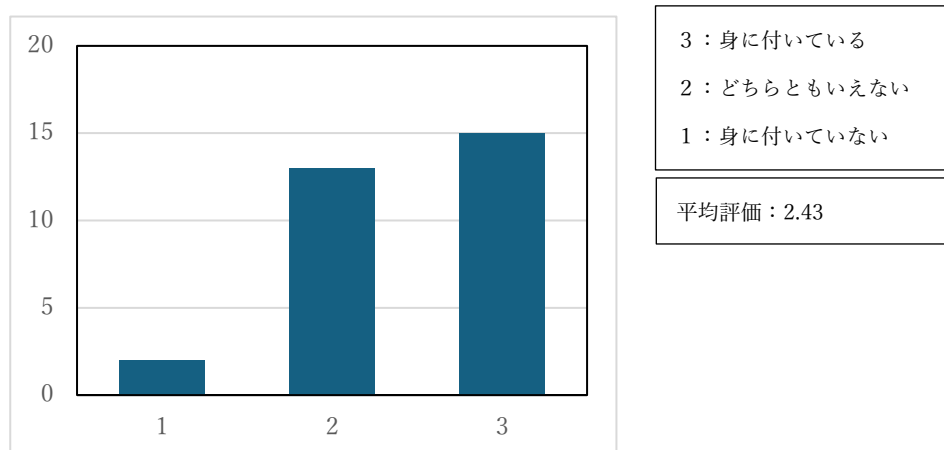


図 1 「豊かな人間性」(n=30)

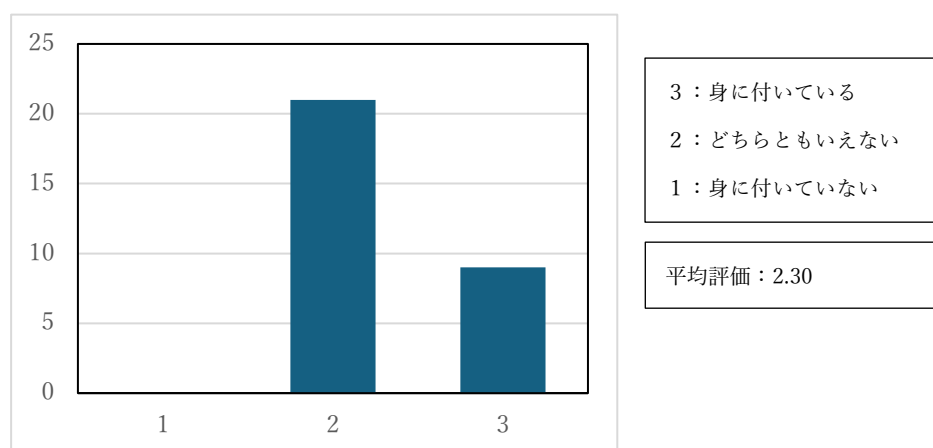


図 2 「確かな専門性」(n=30)

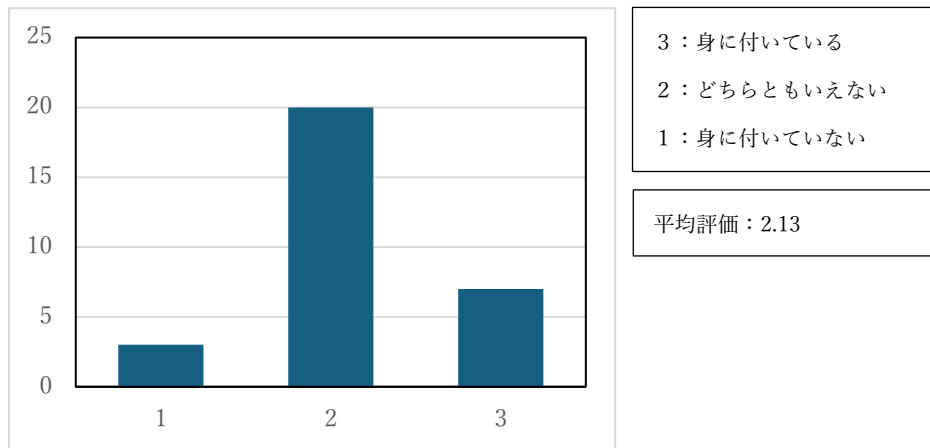


図3 「地域社会への貢献」(n=30)

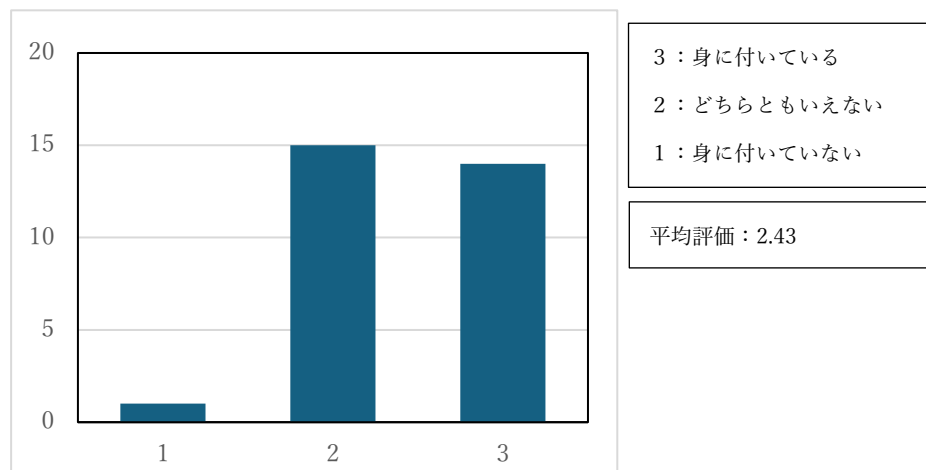


図4 「知識・技能」(n=30)

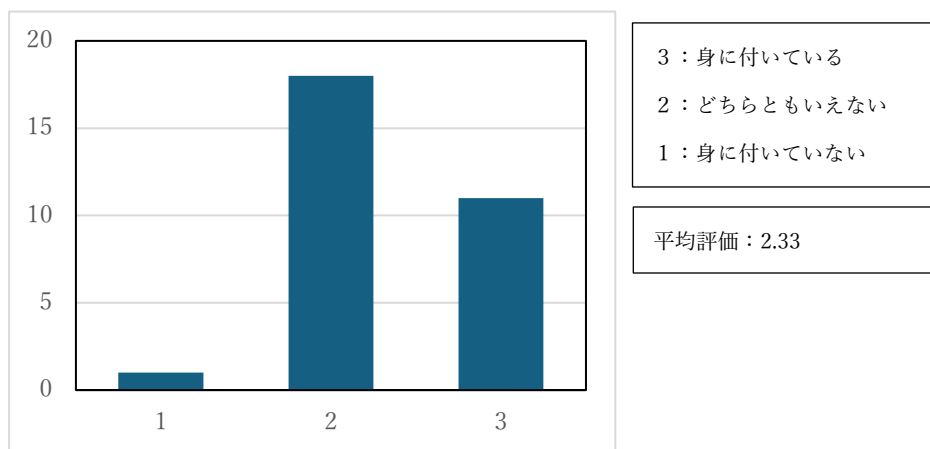


図5 「思考力・判断力・表現力」(n=30)

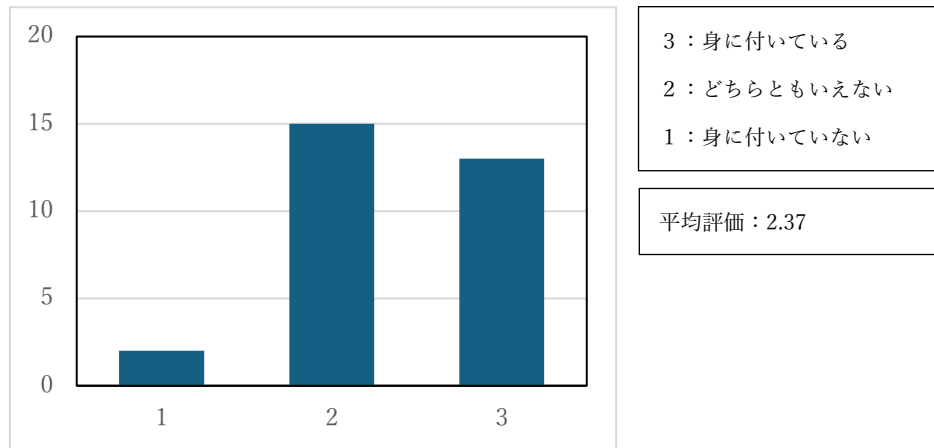


図6 「コミュニケーション力・社会力」(n=30)

また、学生に求める資質・能力について該当するものすべてを選択してもらった回答結果を図7に示す。



図7 「学生に求める資質・能力について該当するものをすべて選択してください」(複数回答可)

「コミュニケーション能力」が26件、「主体的行動力」24件、「協調性」21件、「協働力」20件、「思いやり」17件、「状況把握力」17件、「柔軟力」16件、「優しさ」15件、「社会力」15件と続き、学生に求める資質・能力について、例年と同様の傾向であった。

その他、本学への要望について以下にまとめる。

(1) 学生の育成に関する課題と提案

- ・ 小学校課程から「失敗を避ける教育」が主流となっており、結果として失敗を恐れる学生が増えているとの意見があった。教育課程において「失敗は悪いことではない」という意識づけが重要である。
- ・ 社会人としての一般常識や人間性・社会力の育成が不可欠であり、知識・技能は現場での実践を通じて補えるとの意見があった。
- ・ 学生の育成には個人差があり、育ってきた環境も影響するため、個別の関わりが求められる。

(2) 実習・インターンシップの重要性

- ・ 実習を通じて事業所を知ること、就職に繋がるケースが多い。現場での学びの機会を増やすことが望まれる。
- ・ インターンシップ制度の導入や、卒業生による体験談の共有など、社会との接点を増やす工夫が有効である。

(3) 養成校への期待

- ・ 教育現場と養成校との連携は非常に重要であり、保育者のリスキリング講座の充実などの要望があった。

座学だけでは学びきれないことが多く、現場での体験が学生の成長に繋がるとの意見が複数寄せられた。今後も本学の教育内容や教育サービスの成果や効果の検証と改善、教育目標の見直し等、教育の質向上に活用すべく、本学卒業生の就職先・進路先である企業・法人と継続的に連携する。

以上